
snow love

草食系腐男子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

snow love

【Nコード】

N2568Q

【作者名】

草食系腐男子

【あらすじ】

これはとある男の恋物語

（前書き）

閲覧ありがとうございます

この物語に筋書きはありません

作者は考えながら書いてるので

- 別れよう -

智香の口から出た言葉はあまりにも唐突で

俺はただ降り続ける雪の中に佇むしかなかった

12月24日 クリスマスイブであり、智香の誕生日だった

- - - - -

どれくらい経ったのだろうか

辺りは暗くなり足元に広がる雪が妖艶に輝いていた

最後に覚えている記憶は智香が去っていく後ろ姿

彼女は振り返る事なく駆け足で去っていった

振り返らない

それは俺にはもう

そこまで考えると肩に積もった雪を払い家へと向かった

帰宅すると妹の奈々が出迎えてくれた

正確には妹とばったり会ったというのだろうか今の俺にはそう思えたのだ

「はれ？お兄ちゃん早いね」

奈々はアイスを加えながら喋りかけてくる

「あつ、ああ」

「今日は智香さんと出掛けるから遅くなるんじゃないかなかったっけ？」

智香

その言葉を聞くだけで胸が締め付けられるようだった

「すまない、部屋で寝るから夕食の時間になったら起こしてくれ」

俺はそれだけ言うと二階にある自室へと向かった

ドアを開けるといつもと同じはずの部屋がやけに広く感じる
ドアを閉めるとその場に座り込む

「ははははっ ははっ」

自然と涙が零れ落ちる

風穴が空いたような虚無感

智香がこれほどに大きな存在だったと今更に気がつく

「馬鹿みてえ 俺」

智香と俺が出会ったのは雨の日だった

智香はあろうことか自分の傘を捨て猫が置かれた箱にかけて帰ろう
としていたのだ

「え？私は捨て猫じゃないよ？」

俺が濡れて帰ろうとする智香に傘を差し出した時のきよとした

顔を今でも覚えている

それから俺らは話すようになり付き合うまでにいたったのだ

それがなんで

と突然背中からノックする音が聞こえた

「お兄ちゃん　大丈夫？」

奈々が心配してきたようだ

「ああ、もう飯か？」

俺はできるだけ気丈な声で返す

「あ、まだだけど　ねえ、入っていい？」

「　ああ」

断ることも出来た

ただ、これ以上1人でいるのはあまりにも辛かった

「お兄ちゃん　泣いてたの？」

「格好悪いとこ見られっちまった」

笑いながら返す

たが涙が止まることはなかった

「智香さんと何かあったの？」

「今日智香と別れた　　智香から別れようって　　」

奈々はびっくりした様子だったがしばらくすると俺の後ろに回り抱きしめてきた

「美奈がいるよ　　」

「だあほ！お前は俺の妹だろうが！」

これ以上は頼れない

俺は振り返って奈々にデコピンをくらわすと頭をワシャワシャと撫でてやる

「だけどありがとな、ちつと楽になった」

俺がそういうと奈々は少し頬を赤く膨らませた

「もう素直じゃないなあ、まあお兄ちゃんが楽になったらいいや、私夕食の支度があるから戻るね」

奈々が部屋から出て行くこうとする

「あ、奈々！　　いや、なんでもない」

自分自身なんて呼び止めたかが分からなかった

「お兄ちゃん　奈々はいつだってお兄ちゃんの味方だよ　　」

奈々はそう呟くとドアをしめ一階に向かった

「味方　か」

いつの間にか睡魔が俺を襲った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2568q/>

snow love

2011年1月26日03時09分発行